

新技術・新製品・新事業特集号の発刊にあたって

技術開発本部

副本部長

田 中 康 仁

新聞やテレビ、インターネットなどで「新製品」や「新技術」、そして「〇〇会社が新事業を開始」といったニュースを見掛けます。新技術というと最近では人工知能や自動車の自動運転技術が注目を集めています。新製品では人共存型ロボットやモバイル端末、新事業では海外で話題を集めているUBER（ウーバー、配車サービス）などを思い浮かべます。これら普段何気なく目や耳にしている言葉ですが、いずれもそれまでの社会や生活を変える力をもったもので、夢や未来を感じてワクワクします。



IHI グループはものづくりを基本とする企業であり、コーポレート・メッセージの“Realize Your Dreams”のとおり、新技術や新製品開発、新事業で社会の夢を実現しています。私も入社以来、主に新製品開発に取り組んできましたが、最近は数十年前と比べて開発のスピードや対象製品、市場が大きく変化しています。本特集号でも従来のIHIグループになかった新しい事業分野や技術が紹介されており、読者の皆さまにもIHIの変化を感じ取っていただけるものと思います。

社会環境がグローバルに、かつ急速に変化するなか、新技術や新製品、新事業をタイムリーに実現することは従来にも増して難しい課題です。どうすれば実現できるのか？最新の技術や情報を使いこなし、粘り強く取り組むというのはもちろんのこと、注目すべきキーワードの一つに、「サプライズ：驚き」が挙げられます。例えば三次元プリンター技術やApple社のiPhone、オンラインショッピングなどは、これまでの製造方法や業務プロセス、生活様式を変えた素晴らしい技術や事業です。私も初めて知ったときの驚き（こんなことができるのか！）をはっきりと覚えています。このように、お客さまが技術や製品を手にしたときの期待や驚きが大きければ大きい程、社会への拡がりも大きいでしょう。そのようなサプライズを生み出すためには、何事もすぐに無理と決めつけずに、「できたら良いな」と思われるような目標に取り組む発想や柔軟な姿勢をもつことが実現のスタートであり、大事なことだと思います。

2015年は1989年に公開のアメリカ映画「Back to the Future Part2」で想定された30年後の未来社会の年でした。映画の中の未来製品でもすでに実現できているものも多くあり、荒唐無稽と思えることも、努力と着想次第では不可能ではない気持ちにさせられます。映画では未来から現在に戻ってきた主人公が、将来に大きな影響を与える判断を下すというエンディングでしたが、さて私たちは未来に向けて今どのような驚きをもった新しいものを生み出すでしょうか。